
狂わしきまでに美しい

† アラクネ †

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂わしきまでに美しい

【Nコード】

N4130C

【作者名】

十アラクネ十

【あらすじ】

私は悪魔から『美』を買った。それは神の域に迫る、壮絶な美しさ。・・・悪魔が求めるその代価は。

数年前に、道ですれ違った悪魔から美を買った。

それは妖艶で、純粹で、瑞々しい、光輝く完璧な美しさ。

ほら見て、私が街に出れば途端に、男達の視線を独り占めにしてしまう。

中には女達の、嫉妬の視線も含まれているでしょう。

愉快だわ、何て愉快。

キラキラと輝く白肌に麗しい髪。スラリと少女のような手足。それでいてたつぷりと膨らんだ、形の良いバスト。そしてそして、何よりも、この美しく整った顔！

誰もが必ず振り返る。

ほら、また来たわ。

身の程知らずなナンパ男。

馴れ馴れしい。お金を持っているのが自慢みたいね。それにしたって、あんた程度のみすばらしい奴。

「用は無いわよ」

ネイルサロンでピカピカに整えた爪を突き出し、蔑みをたつぷりと浮かべて目を細める。

「貴方、一度でも自分の顔を、鏡で見たことがあつて？」

アハハ、ああ堪らない、男の真つ赤になった恥辱に満ちた顔つたら！

テメエ調子に乗りやがつて、とか何とか、喚きながら詰め寄ってくる。

このテの男には多いのよね、こういう反応。

私は眉一つ動かさず、男の拳を避けも構えもしない。

ザワリと空気が緊張したのはほんの一瞬、弾かれたように人々が走り出し、金切り声、怒声が瞬時に辺りを満たす。

私に暴力を奮おうとした男は、一瞬後には何人にも押さえ付けられ、不様に道路に突っ伏している。

あの、大丈夫ですか、お嬢さん。

男を押さえたうちの一人、高価な身なりの紳士が、遠慮がちに私を見上げる。

怯えたように口元を指で押さえ、私は弱々しく笑みを浮かべる。

「……はい。でも、その方、何てひどい人なんでしょう」

私の悲しみの表情を見て、男を押さえた人々の表情に電撃が走る。

「そんな乱暴な方がいたら、怖くてこの辺りを歩けないわ」

それは憂いと見せ掛けた、命令。

この美に捕われた者が、逃れられないと知った上で。

「その方、どなたか殺して頂けません？」

サラリと。

極上の、微笑みを浮かべて。

そして始まる地獄絵図。

組み敷かれて動けない男が悲鳴を上げ、その首に腕がかかり、全身に容赦無く打ち下ろされる殴打、蹴りによる打撃。

阿鼻叫喚。

美の女神が望むままに。

輝かしい宝石のような瞳に、我が姿を一瞬でも映して貰いたい
が、彼らは狂った殺戮を我先にと繰り広げる。

でも私は、こんなのはもう見慣れてしまっている。いつもの事。
日常茶飯事。

私は無惨な死肉と化したナンパ男に興味を失い、ツイと視線を上げ
る。

「あいつら」

若い男ばかりの五人組み、そそくさと去って行く彼らの背中を指
差して、私は眉をひそめる。

「この私に、一瞬も視線を寄越さなかった」

「……不愉快」

ザッ！

ナンパ男を殺害した人々はもちろん、その周りにいた人々も、鋭い視線を彼らに向けた。

私は微笑んで囁く。

「死ねばいい」

騒音と共に突然追いつ立てられ、五人組みは乱暴に四方を囲まれる。

混乱、恐怖、彼らは怯えを隠して怒声を上げるも、その威勢が長く続くはずが無く。

爪、指、拳、傘、靴、石、地面。そこにある、あらゆる物を用いて、彼らの肉体は破壊されていく。

苦痛の悲鳴。

哀願。

涙。

そして、哀れな死。

血にまみれ、女神の褒美を期待する男達に、私は喉を震わて甲高い嘲笑を浴びせる。

何台ものパトカーが到着する音。

救急車も来たようだけど、意味は無いわね。

死人と、未来を無くした殺人者達を無視して、私は気分良く歩き出す。

混乱する警察官達の中に、今回もよく見知った顔を見付ける。

私が悪魔と出会う前、未来を約束していた男。

《サヤは、本当に、優しい子だね》

いつもそう言って、私の頭を撫でていた手。少しだけその温かさを思い出す。その柔らかな感触を、ほんの少しだけ、思い出す。

でも今は、私を捨てて選んだ、あの綺麗なモデルさんの小さな頭を、毎日愛でているのよね？

私は笑う。

完璧な、人を狂わすほどの美を手に入れた私は、今や神々の領域。

狂え。

悶えろ。

求める。
壊れる。

そして悲しめ。

かつての私が、そうであったように。

あの男を指差し、

殺して

そう口に出来たその時、私はついに、全ての人としての心を失う
のだろう。

狂気の現場で苦痛と絶望の余韻を嚼りながら。

悪魔が、その時を待ち侘びて舌なめずりしている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4130c/>

狂わしきまでに美しい

2011年1月11日16時42分発行